クローズアップ 農家

国の根本である 農業を守る Vol. 2

変わらない信念がうみだす、循環型農業

藤里町馬坂　加藤　昇さん(73)　フミさん(72)

畜産農家として30年以上経験を持つ加藤さん夫妻。現在白神和牛5頭の繁殖の他に、ねぎ80ａ、山うど80ａを手掛けています。加藤さんはねぎ・山うどにおいて、地域の先駆者として率先して栽培に取り組み、他生産者の模範となっています。また牛堆肥の有効活用による循環型農業も実践し、環境に優しい農業経営を行っています。

「これまでも様々な作物に挑戦して、30年ほど前に牛の繁殖を行うようになった。順調に規模や頭数を増やしてきたが、２００１年にＢＳＥ問題が起きて、生活が一変した。このままではいけないと、それまで行っていた山うど栽培の他に、以前から興味があったねぎ栽培を始めた。ねぎ栽培に関してはまったくの素人だったので、講習会があれば欠かさず出席して、ＪＡの指導員の方には本当にお世話になった。そのおかげで徐々に栽培技術も上がって収量も取れるようになったが、最近の異常気象による天候不順や気温の低下、また病害虫の発生には頭を悩ませている。」と加藤さん。

早朝牛の世話をしてから畑仕事へ向かう毎日。ねぎや山うどの最盛期には、作業は深夜までおよび、翌早朝からまた牛の世話を行います。

「牛も野菜も手間を掛けた分だけ、良いものができる。ずっと農業をやってきて、継続することが1番重要だと気付いた。時代や天候によって、良い時もあれば悪い時もある。でもそれでも長く続けることが、農業には必要だと思う。」と話す言葉から、加藤さんの農業に対する信念を感じました。

▼昨年の成牛品評会で最高賞を受賞した「りゅうこ号」